

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 農DX教育研究推進拠点

(責任者名) 竹田 謙一
 (役職名) 拠点長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>【意見・結果】 プログラムの必修科目である「データサイエンスリテラシー」は、令和7年度は履修者が175名であり、単位修得率は98%という結果だった。 加えて、令和7年度に初開講となったプログラムの必修科目「データサイエンス実践基礎」の令和7年度履修生は5名、単位修得率は80%という結果だった。</p> <p>【評価・今後の取組等】 令和8年度に向けて、新年度ガイダンスで学生への周知を行った。また、令和8年度から「データサイエンス実践基礎」は前期と後期の2学期に開講することとし、時間割に制約があった学生も履修できるよう取り組んでいる。</p>
学修成果	<p>【意見・結果】 令和7年度開講の「データサイエンスリテラシー」及び「データサイエンス実践基礎」の成績(秀、優、良、可、不可)の分布などを分析し、本プログラムの履修・修得状況や学修成果を把握している。また、「データサイエンスリテラシー」については、学習成果の分析し、学内で分析内容を確認している。</p> <p>【評価・今後の取組等】 令和7年度開講の2科目については単位修得率も高く、現時点で大きな問題はないと評価できる。 本学部では各科目の成績分布表を作成しており、毎学期教員向けに公開している。プログラムの科目と他の科目の単位修得率などを比較することができる。今後、単位修得率等をもって授業内容の難易度等を注視していく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	<p>【意見・結果】 本学ではすべての正規授業について、学期末のタイミングで「学生による授業アンケート」を実施し、理解度(シラバスで示した到達目標に対する達成度)や、授業への満足度を把握している。「データサイエンスリテラシー」については「到達目標への達成度」の回答者平均値についてこれまでの最大値を更新している。「達成感を得られた」の回答者平均値も高水準を維持している。</p> <p>【評価・今後の取組等】 令和7年度開講の2科目について、高い単位取得率かつアンケート回答結果の達成感についても良好な状態であるので現時点で大きな問題はないと評価できる。令和8年度開講科目についても「到達目標への達成度」が高くなるよう工夫して授業を実施する。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	<p>【意見・結果】 教育プログラム開始の初年度であったため「授業アンケート」で後輩への推奨度について調査は行っていない。</p> <p>【評価・今後の取組等】 本学部では農DX-ICT勉強会を実施しており、勉強会を通じた学生同士の交流から本プログラム関連科目の履修推奨は可能と考える。「農学データサイエンス入門」や「農学データサイエンス演習」は令和9年度初開講のため、授業担当教員が農DX-ICT勉強会参加の学生に授業の推奨を呼び掛けており、令和9年度の履修者数について今後注視していきたい。</p>

	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>【意見・結果】 「データサイエンス実践基礎」は入学時のガイダンスにてチラシの配布を実施し、信州大学データサイエンス教育推進本部ホームページでも周知している。農学部開講講義科目「生物統計学」は農学部生の必修としており、農学部生全員が受講する予定である。また、「生命・食品科学情報処理演習」「食料生産システム科学情報処理演習」「山岳圏森林・環境共生学情報処理演習」は、3演習のうち必ず1つは受講する必要がある選択必修科目である。</p> <p>【評価・今後の取組等】 「農学データサイエンス入門」や「農学データサイエンス演習」は令和9年度初開講となるが希望者が履修しやすい学期期間外の集中講義として開講する。</p>
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>【意見・結果】 本プログラムは令和7年度に開設したため、まだ卒業生はいない。</p> <p>【評価・今後の取組等】 農学部学務グループでは卒業生の進路状況を毎年調査しており、本学では就職先調査を定期的実施している。調査によって本プログラムを修了した卒業生の進路先・活躍状況・企業等の評価を把握するよう取り組む。</p>
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>【意見・結果】 令和6年度に卒業生が働く企業にアンケートを実施し、学生への企業側の期待と社会の現場に必要な情報系スキルに関する教育が求められていることを確認した。</p> <p>【評価・今後の取組等】 令和7年度の本学部のコース再編で情報系の授業科目を増やすとともに教育プログラムを設置した。今後も企業アンケートから社会要請に見合う教育内容の充実化を図る。 加えて、令和9年度より開講される「データサイエンス入門」は本学部の教員だけでなく他大学の教員にも授業を担当いただくことになっている。授業を実施するにあたり他大学の教員の意見も取り入れながら授業計画を立てており、今後授業実施後のフィードバックをもらうことで授業構成の見直し等実施する予定である。</p>
	教理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>【意見・結果】 教育プログラムにおける各授業科目において、情報科学と社会とのつながり、データサイエンスやAIのアプリケーションについて最新の事例に基づいて紹介し、学生の動機付けを図っている。</p> <p>【評価・今後の取組等】 現在開講されている授業においてデータサイエンスを学ぶことの楽しさや意義を学生が理解できるような授業内容となっており、現時点では大きな問題がないと評価できる。</p>
	<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>【意見・結果】 学期末のタイミングで「学生による授業アンケート」を実施し、理解度(シラバスで示した到達目標に対する達成度)や、授業への満足度を確認した。これらのフィードバックされた学生からの意見・コメントを参考にし、半期ごとに、学生の「分かりやすさ」の観点から授業の内容や実施方法を改善していくための仕組みが構築されている。 加えて、本学部では教育関連のFD(Faculty Development)として毎年いくつかの授業についてピアレビューを行っている。教員同士でピアレビューを行うことで、工夫されている点を自身の授業に取り入れるといったことを可能としている。</p> <p>【評価・今後の取組等】 教育関連のFDで授業のピアレビューを引き続き実施し、教員間の情報共有を通じて各授業が「分かりやすい」授業となるよう取り組む。</p>